

# 雨のワンマンカー

小松 幹生

雨の降る夜のことである。

乗客十名ほどのをのせたワンマンカーが走っている。

誰も何もいわない。いつものように、黙々とただゆらゆらしている。  
ふと、誰かが窓の外を気にする。

- 1 おかしいな……変だな。……あの、ちょっと、おかしいですね。
- 2 何がですか？
- 1 なんか……。どこだろう、ここは。
- 2 さあ、どこなんですかね……
- 1 見覚えありますか？
- 2 ないですよ。
- 1 あなた、団地の人じゃないのですか？
- 2 団地？
- かたわらから、3が、
- 3 おかしいですね。
- 1 でしょう？
- バス、左折する。
- 4 いま曲りましたか？
- 5 (うなずいている)

皆、てんでにキョロキョロする。

互いに顔を見合わせて、やがて運転手に視線を集める。

運転手、キツと口をつぐみ、前方をにらんだまま動じない。

- 1 あ、の、ちよつと……もしもし……
- 3 どうなつてんですかね。
- 4 のびあがつてボタンを押す。ブザーが鳴つて小さな停車合図のランプがたくさんともる。  
そのままバスは走る。いま停るかいま停るかとは皆は待っている。
- 4 あ、の、皆さん、団地の人でしょう？団地へ帰るんでしょう？  
皆、うなづく。  
ただ一人、2は窓の外を見ながら、
- 2 団地へ行くバスなのか、これは。
- 4 あ、の、運転手さん……もしもし……
- 3 あなた、声が小さいんですよ。
- 4 え？ ああ。……あ、の、ちよつと……
- 3 だめですよ、それじゃ。
- 6 道路工事のために廻り道してるんだと思いますね。じゃなかったら、この雨で土砂崩れがあつてとか。
- 7 でも何もことわりがないのはおかしいじゃありません？（とこれは女である）
- 8 第一土砂崩れになるような崖も斜面もないわよこの辺。（とこれも女である）
- 6 だったら、どうぞ、聞いてみたら。
- 7 8 ……
- 5 次ぎ、降りるぞ！  
返事なし。

間。

7 あなた、確か自治会の委員長さんでしょ。

9 え？ いや……

7 代表して聞いてみて。

9 自治会といっても三街区の自治会で、全体の代表じゃないから。その方が確か全体自治会の書記長さんじゃないですか。

10 とんでもない。うちの自治会は三街区の自治会とちがって政治問題にはまったく関わらないんです。ただほんのちよっとした野菜の産地直送とか、灯油の一括購入とか映画会とか、そんなことをやるだけです。だから、でしゃばって誤解を受けると立場上まずいのです。それでなくとも、共産党じゃないかと陰口をきかれて、活動しにくくて困ってるんですから。

8 じゃ、どうするの？ このまま黙ってるわけなの？

10 だから、どなたか……

8 どなたかなんて言ってないで、あなたが聞けばいいじゃないの、どうってことない簡単なことなんだから。

10 だったら、あなたが聞いたっていいじゃないですか。

8 だってわたし、女よ。おかしいわ、男の人をさしおいて。ねえ。

7 ええ。

このとき9が10に向って、

9 いま、あなた、三街区自治会が何やら政治団体であるかのような言い回しをしたようですが、とんでも

ないですよ。いいですか。大体、自治会をつくろうという一番初めの準備会で、二百十二名の人間が集まって多数決で何を決めました？全体の自治会ではなくて、各ブロックごとの自治会にした方がいいということになって、そう決定したんでしょう。それをあなた――

10 いや別にわたしは、いいですか、九州の田舎者ですよ、なんにも知らない。ただ、みんなが喜こんでくれればそれでいい、そう思って声をかけた、大体、わたしが準備会を開こうと言いだした人間ですよ、いいですか、いい出しっぺなんですよ、であるから、責任があるんです、いやですよ、途中で放り出すのは。

9 いや、ぼくの言ってるのは、準備会の決定をどうして守らないのか――

10 それはね、あの時集まった人の間では、それが多数だったかも知れませんが、でもね、二百名のうちの多数であって――

9 二百十二名。

10 十二名ぐらいどうでもよろしい。

9 何を言うんです。

10 話の腰を折らないで下さい。いいですか、この団地に一体何世帯の家族が住んでいると思ってるんですか。三千二百十二世帯ですよ。人間の数でいえば一万ちかい。そのうちの二百名。

9 二百十二名。

10 その約二百名のうちの多数とって、どういうことですか、これは。

9 しかし準備会の決定は決定です。あなたは第一その場に居合わせたのでしようが、居なかったというのなら、まだ話は判ります。ところが、あなたはその場にいた、いて、決定に参加した、それなのに、その

決定を無視する行動の先頭に立っている。

10 だから言ったでしょう。担ぎ上げられてしまった以上、最初の言い出しっぺでもあるから、途中で放り出せない。第一、われわれが何か悪いことをしましたか。何か人に批難されるようなことをやりましたか。

9 それは知りません。

10 知りませんという言い方はないでしょう。あなた、わたしを挑発するつもりですか

9 まさか。ただ、ぼくの言いたいのは、三街区自治会は政治団体ではないということです。これははっきりしておかないといけない。

10 それは、わたしは関知しませんよ。人の噂はどうあれね。

9 どういう意味です？

10 やめましょう。

9 どういう噂があるというんです。

10 いろいろあるでしょう。噂というのはいつもいろいろあるんだから。

9 それはぼくのおやじは自民党の元代議士の秘書をやっていました。代議士じゃない元代議士、しかも本人がじゃなくて、本人はその秘書、しかも現在じゃなくて、ずっと前、しかも、それはぼくじゃなくて、ぼくのおやじ。そのうえ第一、だから、どうしたというんですか。

10 わたしは知りませんよ。わたしは噂じゃないんだから。

9 いいですか、ぼくはどこの政治団体にも属していない。それは事実です。それに、ぼくはぼくであって、三街区自治会そのものじゃない。

10 あたり前です。そうでなくちゃなりません。がしかし、世の中往々にして、それがそうでない場合が  
ありましてね。

9 ぼくが独裁者だともいいたいのですか。

10 一般論を言っているんです。

6 もうやめたらどうですか。今、そんなことでもめてるときですか。

9 いや、いい機会ですから、はっきり言っておきたいんです。

4 やめて下さいよ、もう。

10 わたしは別に議論は好みません。しかしその方が。

9 いいがかりをつけたのは、そっちでしょう。

10 まさか。

5 うるさい！

とにらみつけておいて、今度は前方へ向って、

5 おい運転手。さっきから停車合図のランプがいくつもついていて、それを見ると、次ぎとまりますと書いてある、これは嘘なのか？

運転手、どうするかと見ると、スイッチを押して、停車合図のランプを消した。

5 ふざけるんじゃないぞ、この野郎。

と立ちあがり、つかつかと運転席へ。

ブレーキがはいり、5、前にのめってぐっと踏んばるとき、急にバスはスピードアップ。

5、後にひっくり返って、頭を打って床にのびる。

みな呆然とする。

バスは走りつづける。

7 怖いわ……

バスがカーブを切ると5の体が床で、ごろごろと転がる。

6 どうも、おだやかじゃありませんな。

3 死んだんですかね。

4 まさか。

3 いいんですか、このまま放っておいて。

6 しかし、立ちあがると危険です。80くらいでてますよ。

3 いま、あれは、故意にやったんでしょうか。

4 まさか。

6 判りませんよ。

3 大丈夫ですかね、その人。頭打ったようだけど。

1 大丈夫、人間は、そう簡単には死にません。

3 でも動かない。

9 ……ちよつと、運転手さん、あなた。

10 聞こえませんか。

9 とめて下さい。

10 とめなさい。



- 9 どこへ向って走っているんですか。  
10 ……こら、聞こえないのか。  
0 走行中。  
10 え？  
9 なに？  
3 チュウ？  
4 虫？  
6 なんです？  
0 走行中。  
3 コウチュウ？  
4 かぶと虫？ え？  
1 走行中だから話しかけるなど……？  
みな、顔を見合わす。  
ふと窓の外、後方を見たワが、  
7 団地の灯が向うに……あれ、団地なんでしょう？  
8 ……そうだわ……  
みな、首をめぐらす。決心して、  
1 運転手くん、どういふことですか、これは。バスを止めなさい。すぐに停めて引き返しなさい。……返事をしなさい。返事をするんだ！

心なしかバスのスピードが増したようだ。

— このバスは団地行きのバスだ、われわれは団地に帰るんだ、ちゃんと六十円ずつ払ってる。君はバスの運転手だ、客を目的地に運んで行く義務がある。それが君の仕事だ、なのに君は一体なにをしている、どこへ行こうというんだ、これは遊覧バスじゃないんだ。君！ 返事をしたまえ、返事を！ 黙っててことがすむと思ってるのか！ 君！

車体が激しく蛇行する。

— 君！

9 やめろ！

女たちの悲鳴。

— 君、君は気がついてるのか、さっき一人頭を打って倒れた、君のせいだとは言わない、しかし君にも責任がある。このまま放っておくと命にかかわるかも知れない、見てみる、転がったままだ。この人にも帰りを待っている女房子供がいる、いるにちがいない、その家族に君は何と申しひらきをするんだ、今ならまだ遅くはない、我々だって怒ったりはしない、なに、ほんのちよつと帰りが遅くなっただけだ、ドライブを楽しんだんだと思えばことはすむ、もう夜も更けた、ふざけるのはやめよう、やめて、さあ引っ返そう。さあ。君。……聞こえているんだろう。判ってるよ。人間誰だって時には訳もなくいららざることがある。口をきくのもいやになるときがある。極度に分業化されたこの現代社会で、われわれは毎日タタキのうと同じことをくり返して生きている。たまにちよつとした変化があるかと思えば、それは決まっていやなことだ。サラリーマンだって、君たちのような仕事だって、それはおんなじだ。でも、それが仕事さ、人生なんだ。なあ君、耐えていこうよ。耐えていこうじゃないか。

3 あなた、ちょっと――

1 人生いつもいいことばかりじゃない。楽しいことばかりじゃない、むしろ、いやな苦しいことの方が多い、でもにっこり笑って生きていこうよ。ねえ、そうじゃないか、同じ仲間じゃないか、ねえ、つらいことがあったら、話してごらん。

3 ちょっと、人生相談じゃないんだから。

7 そうよ、ぐずぐず言っていないで、早く停めさせてよ！

1 どなっちゃいけない、どなっちゃいけないんだ。

8 あなた、そいつの何なのさ？ 父親？ 兄貴？ まさか母親じゃないでしょ！

1 いやそうじゃない、そうじゃないが、あの人の気持はなんかよく判るような気がするんだ。

7 あんな男の気持なんかより、こっちの気持を解ってよ！

8 そうよ！

1 そんな、ヒステリックな声を出さないで、いいですか、いま助けがいるのは、君たちじゃない、あの男なんだ。

2 がひとり鼻で笑った。

皆に見られて、それでもまだくすくす笑っている。

3 あんた、なに笑ってるんだよ。

2 ……

3 その人の言ってることに、おれは賛成じゃないよ、ないけど、しかしおかしかないよ、笑うときじゃないんだよ、今は。みんな協力して、説得するなりなんなりして早く団地へ向かわなきゃ。あんただって

早く帰ってやすみたいだろう。

2 いや別に。……団地へ帰ったってしようがないんだ、ぼくは団地の人間なんかじゃないんでね。

3 じゃ、なぜ……？

2 乗ってちゃいけないのかい？

3 まさか……あんた、あいつとグル……

2 バカは嫌いだ。

運転手、じろりと振り返る。

バスは走りつづける。

運転手、前に向きなおる。

9 あの、あなた(一)説得をつづけて下さい。

4 もう説得している段階じゃないんじゃないか。

7 そうよ、だめよ、口で言ったって。

8 だめよ。

9 じゃ、どうするんです？

7 やっちゃんよ。

9 やっちゃん？

7 (うなずく)

9 そんな無茶な。

7 ほかにどんな方法があるというの。

- 9 そりゃ……しかし、やっちゃうなんて、まだそんな段階じゃないでしょう。
- 10 え？ あなたはすると、段階がくれば、やっちゃってもいいと考えている？
- 7 いいも悪いもないわよ。
- 8 やらなきゃ、こっちが殺されるわ。
- 10 あなたに聞いているんです。
- 9 とにかく、今は、反対です。
- 10 いや、そうじゃなくて、やるやらないが一定不変の原則的なことなのか、かりに事態が変化した場合、あるいは時代の推移によっては適当に変化することなのか、どう考えていられるのか、ひじょうに大事なことです、お答え下さい。
- 9 そのような仮定の上に立った御質問にはお答えできません。
- 10 いいですか委員長、仮定だの推定だのという問題じゃなくて、あなた御自身のよって立つべき根本的な思想を問うておるんですよ、どうなんですか、是非お答えいただきたい。
- 9 お答えいたしません。
- 10 答えろ！ バカ者！
- 9 バカとはなんだ、取り消せ！
- 6 二人で何をごちゃごちゃ言ってるんですか。仮定の問題だの根本的な思想だのじゃなくて、今、今ですよ、今どうするか、それを話し合わなくてはいけないでしょう。
- 3 やっちまおう。
- 1 まだ説得の余地があります。

7 ダメよ。だってあれだけ話しかけても、まだ一言の返事もしていないじゃない。それをどうやって説得しようというの。

1 いや、一言だったたら、答えてくれましたよ。

7 いつ？ なんて？

1 走行中。

7 あれが答えたうちにはいるの。

4 やっぱり、もう説得の段階じゃないな。

3 やっちまおう。

1 あなた、運転手さん、聞こえていますね。

0 走行中。

1 ええ、それは判ってます。でもこれは大事な話です。あなたの気持はよく判ります。いや、あなたは他人からそんなに簡単に判ってもらいたくはない、それもよく判ります。ぼくも若いころ、そういう気持ちをいだいた経験があります、だから、よく判ります。

3 いい加減なこというなよ。

1 いや、判るんだよ、ぼくには、判るんだ。

3 じゃ、奴はどこへ行こうとしているんだよ。言ってみろよ。

1 いや、そういうことじゃないんだ。そうじゃないんだよ、問題は。問題はね、あの人が、あの若者が、なぜこういうことをしなくちゃならなくなったのか、その原因、それを皆で考えて――

3 なに言ってるんだよ！ おれたちは早く家に帰って休みたい、だからバスを停めて、引き返すなりタクシ

1 ーに乗りかえるなりしたい、奴の気持なんかどうでもいいんだよ。甘えるなというんだ。

1 いやいや、誰も甘えてなんかいややしない。ごらんさい、ほら、見えるでしょう、バックミラーに映ったあの人の、あの哀しそうな顔が。

3 悲しいのはこっちだよ、ふざけるなよ！ バカ野郎！

1 あなたが腹を立てる気持はよく判ります。みんな自分が大切です、人のことなどかまっちゃいられない、それはそのとおりです、人に迷惑をかけるのはよくない、それもそのとおりです。

3 それだけ判ってりや、言うことないよ。

1 いや、待って下さい、ちがうんです。

3 何がちがうんだよ！

1 人間は一人ひとり別々で関係ないという考え方は間違いなんです。

3 なに言ってるんだよう。

1 いや聞いて下さい。あの人がいま悩んでいるのは個人的な悩みである、だから我々には関係ない、バスを停めて引き返せ、引き返せばそれでいいんだというのは違います。人間は一人ひとり別々だけど、みんな一緒なんです。

3 なんだ、そりゃ？

1 みんな同じなんですよ人間は、いいですか、あの人の悩みはだから、ひとごとじゃないんです。

3 あの人の悩みあの人の悩みっていうが、それは一体なんなんだ、判ってるのか？

1 だから、それを皆で聞いてやって――

3 だから、そんなことをしている時間はないと言ってるんだよ！

7 ごちゃごちゃ言ってないで、あいつを、早く、殺してよう！  
間。

6 おだやかじゃないですな。

3 とにかく、やっちまおう。

4 手ぶらで？

3 何かあるか？

8 そのバッグの中は？

3 こいつ（5）のだな。

バッグを引きよせ、開けてのぞきこみひっかき回す。

スパナが出て来た。

3、スパナを手にしてにやりとしながら、しかし、どうしようかと皆に問いかける。

6 やりすぎでしょう。

9 いきなりスパナは早すぎます。

7 やって。

8 早く。

7 お願い。

3、決心して立つ。

そろりそろりと前進する。

7 待てないわ。



8 早く。

7 やってえ。

興奮して進む3。

と、急ブレーキの音。

悲鳴。

3、前方に突っ走り、フロントグラスに頭から飛びこむ。

恐怖と恍惚の絶叫。

間。

バス、スタート。

3の体、床にずり落ち、バスがスピードを上げると、ごろごろと後方に床を転がる。

6 おだやかじゃないですな。

4 ちくしよう。

と、立とうとする。

ブレーキがかかり、4、かろうじて腰かけにしがみつく。

バス、スタート。

やおらブレーキ。

床に尻もちをつく4。

バス、スタート。

4 くそ！

10 やめなさい。やめてこっちへ来て。みなさんも、集まって、敵は手強い。単独行動は危険です。作戦会議を開きます。いいですね。

9 この際だ、日頃の確執はおいて、協力しましょう。

皆、腰かけたまま前かがみになって額を集める。

2は離れたまま。

4 おい、こいよ。

2 ぼくはいい。

4 お前、なんかさつきから一人離れてそしらぬ顔しているが、お前だってこのバスに乗ってるんだぞ。事故が起きてみる、死ぬときは一緒だ、判ってるんだろ？

2 嫌いなんだ、徒党を組むのが。メダカじゃあるまいし。

4 この野郎……

1 放っておきましょう、どうせ邪魔にもならないんだから。

2 ハハハ、皮肉のつもりですか。

会議が開かれる。

2は一人離れて、

2 君、運ちゃん、どこへ走っているつもりなんだ。甲州街道から町田街道にはいったのは判ったけど、どこへ行くんだい。どういふつもりか知らないが、無駄だよ。早い話が、どこまで走ったってやっぱり道路の上だよ。アスファルトで舗装された道路の上だよ。大変なことをやらかしているつもりだろうけど、そりゃ幻想だ。勘ちがいだよ。ちよっと乗客がおろおろするだけだ。ガソリンが切れたらそれまで。みなま

た家に帰る。君もまた仕事に帰る。ゲームみたいなものじゃないか。それとも、このまま走っていると天にでも舞い上るといふのか。ちがう世の中に飛びこめるとでもいふのか。Uターンしなよ、その方が利口だ。取るに足らない連中を怖がらせるのが、そんなに面白いのか。

4 お前、何かツコつけてんだよ。

2、ちらと一べつして、また運転手に向って、

2 あんたも馬鹿だが、こいつらとは違うことはちゃんと判っている。

4 おい、聞こえないのか。

2 うるさい。

4 野郎……

2 まあ、夜風で頭をひやして考えてみるんだな。こんなことが何かになるか。

4 がスパナを拾った。

1 君。

6 なにをするんだ。

4 やってやる。

2 相手を間違えてやしないか。

4 間違えてない。

1 よせ！

6 やめろ！

2 君、やめろ！

4 やってやる。

2 なんておれを。おれは無関係だ、無関係だ！

4 死ね！

なぐりかかる。バスがバウンドして、的がはずれ、ガラス窓が叩き割られる。

2 助けてくれ！ 誰か！

再度ガラスが割られる。

女たちの悲鳴。

2 相手を間違えてるよ！

三度ガラスが割られる。

4 死ね！

とスパナを四たび振り上げると、2、悲鳴を上げて気を失う。気を失って床に落ちる。

4 チ！ 口ほどにもねえ野郎だ。

と、どさりと坐る。

みな、顔を見合わす。

7 死んだの……？

間。

2、気がついて、おどおどしながら席にかえる。

8 すごいわ……すてき。男らしい……！

4 さ、やるかな。

10 待て。敵はハンドルを握っている。

4 大丈夫だよ。床にはいつくばるようにして、ジリジリと進む。

9 そうじゃない。スパナで奴をなぐる、するとバスはどうなる？ 問題はそこだ。

1 だから、説得するしかないんだ。

4 それはだめさ。効果なかったじゃねえか。

6 奴の母親でも連れて来られればいいんだが。……電話はなし……

4 バカ。

10 何か有効なやり方がまだ、あるような気がするんだ、何か、おだやかで紳士的な方法が。

4 やるぜ。

8 早くやって。

4 まかしときな。大丈夫だよ、殺しやしねえ。おれだって血も涙もある人間だ。情けってもものを知ってらあ。ちよつとばかり可愛がってやるだけよ。な。こいつあいらいねえ。持っててくんな。(とスパナを8に

手渡す) 行ってくるぜ。

さつと前方に身構える。

4 義理と人情をはかりにかけりや

義理が重たい男の世界

と歌いながらじりじりと進む。

このとき、2が8の手からスパナをかすめ取ると、4の後へ。

スパナを振り上げる。

8の悲鳴。

一度、二度、三度と4の後頭部にスパナが打ちおろされる。

くずおれる4。

2 ハハハハ、ざまあ見ろ、畜生！ インテリだと思って馬鹿にするな！ おれだって人間の一人や二人殺せるんだぞ。見たかバカ野郎。

(歌う)

やると思えばどこまでやるさ

これが男の魂じゃないか

義理がすたればこの世は闇だ

なまじとめるな夜の雨

どうだ、畜生。……おい、その女。おい、呼んでんだよ。

8 え？

2 はいと言え、はいと。女だろうが、お前は。

8 はい？

2 なんだそりゃ、語尾を上げるな。

8 はい。

2 どうだ？

8 ……え？

2 どう思った？

- 8 ……え？
- 2 いまのおれを見て、どう思った？ 言ってみな。
- 8 ……あの…
- 2 遠慮しないで本当のところを言ってみな。どう思った？…言ってみろってんだよう！
- 8 はい、あの…
- 2 どういう感じだった？
- 8 男らしいというようなことを…？
- 2 相談する奴があるか、馬鹿やろう！
- 8 はい、男らしいと思いました。
- 2 だめだ、やりなおし。
- 8 ……？
- 2 ことばに気持がこもっていない。
- 8 男らしい。
- 2 やりなおし。
- 8 男らしいわ。
- 2 もう一ぺん。
- 8 すてき！ 男らしいわ！
- 2 お前、本当にそう思ってるのか。
- 8 ……すてき。

2 人を殺したんだぜ。

8 ……男らしいわ。もっと殺して！

6 あなた、もうやめなさい。こんな時に何が面白くて女性をからかうのですか。

バスが激しくゆれる。

2、腰をおろし、しがみつく。

10 どうしますか？

9 なにをです？

10 この人（2）。

9 どうするとは？

10 だって人を殺したんですよ。いいんですか、放つといて。

9 ぼくはしかし、体制側の人間じゃありませんから、法律を犯した人がいるからって、警察へつき出すの  
なんの、そんなイヌみたいなことするのはいやですよ。

10 わたしだって一応反体制です、自治会の書記長ですからね、そうですよ、そりゃあなたと同じです。

9 じゃ、どうしますかとは、どういう意味です？

10 だって、いいんですか、その人がそのままそこにいて、で、我々でこう話しあって対策を練る、なんかやりにくくありませんか。仲間にいれるならいれるで、たった今ひとりの仲間を殺したことについて何か一言あってしかるべきだし……でしよう？

9 そりゃそうだな。

10 われわれだって、その人に当然一言二言いうべきセリフもあるはずでしょう。それを何も言わない



で、その人をそのまま放っておいて、また対運転手に気持を集中するなんて芸当はできないですよ。でしょう？

2 そこで何ぼそぼそ言ってるんだ？ 次の打つ手は決まったのか？

10 ……実はね、ちよっとあなたに話があるんですよ。

2 おれに？

9 そう、あなたに。

2 何だい？ 批難しようってのか？ 人ひとり殺したから。

10 いや、別に。

2 へえ……じゃ、殺人は別にとがめない？

9 そう、別に

2 じゃ、なんだい？

10 仲間にはいるか、それともいやか、答えてもらいたいんですよ。

2 いやだね。

10 ……いやだって。

9 なるほど。

10 じゃ、しようがないな。

9 しようがない。

10 出て行きなよ、ここから。

9 降りてもらおう、バスから。

2 どうやって？

10 降ろしてやるよ。

9 まかしておきな。

10 かしな。

と、2の手からスパナを取ると、窓ガラスを割る。さっき割れたところを隅まできれいに割る。

9 みな手をかしてくんない。

と言わざま2を10と一緒に抱き上げにかかる。

2 何をする！ やめろ！ やめろ！

6、1、7、8、手伝う。

しがみつく2の手を指一本ずつひっぺがし、ついにその頭を窓から外へつき出す。

2 やめてくれ！ 人殺し！

と泣きわめくのをかまわず、ついに放り出す。

長く尾をひく悲鳴。

その悲鳴を聞くうち、全員ぞっとしたか、また恐怖にとらわれる。

ガタガタとゆれる車体。

ときおり対向車のヘッドライトがバスの車内を照らして、さっと流れる。

7 ……どうするの？……ねえ、一体どうなるのよ。

6 君、運転手さん、もういい加減にしようよ。もう黙ってすつとばすのはやめてくれよ。われわれだって

馬鹿じゃないんだ、ちゃんと君の気持を話してくれよ、バスを停めてこっちを向いて、おだやかに話してくれよ、そしたらちゃんと聞くよ、聞かしてもらおうよ。こうやって同じバスに乗り合わせたのも何かの縁だ。ねえ、そうだろう、そうじゃないか。そりゃ、われわれは君に比べたら何の悩みも持っていないのかも知れない、しかし、君の悩み、君の夢、君の哀しみ、なんでも話してくれ、ちゃんと聞くよ、判ってあげるよ。そして、ああしろというんなら、ああしてあげるし、こうしろというんなら、こうしてやる、何でも言うことをきくよ、何でもきく。ねえ、運転手くん、われわれのこれが誠意だ。それは認めてくれよ、それを認めてもらえなかったら、もうどうしようもないよ。黙ってちゃ判らないじゃないか。君、一体、どこへ行きたいんだよ！ はっきり言えよ！ もし、それがいいところなら、一緒に行ってやろうじゃないか。言ってみろよ！……畜生、言っても判るものかとタカをくりやがって。人を馬鹿にするんじゃないぞ、この野郎。こっちだって死ぬ気になれば、お前なんか簡単に殺せるんだぞ、バカめ。

9 やっちまおうか。

6 やっちまおう。

7 早くやって。もう、あたし、人が死ぬのを見るのはいや。もうたくさん。

8 ほんと、もう耐えられない。早くあいつを殺して。おねがい。

6 よし。

1 待って下さい。もう人が死ぬのを見るのはいやだから、早く殺して、とはどういうことですか？

7 だってもうたくさんなのよ、判らないの？ なんとも思わないの？ もう何人死んだと思ってるの？

こんなことをまだ続けたいの？

1 いや、早くこんな状態を終わらせたいとわたしも思っているんですよ。

7 だったら、どうしてあいつを早く殺さないのよう。

1 だってそれはおかしいじゃありませんか。矛盾していますよ、あなたの言ってることは。

7 矛盾なんかしてないわよ。いい？ わたしは同じ人間として、家族もあり将来もある一個の人間が、むざむざ死んでいくのを黙って見てはいられないひとなのよ。耐えられないのよ。心がとても痛むのよ。判る？ その人間としてのわたしの気持のどこに矛盾があるっていうの！いいわ、矛盾があるというのなら認めてもいい、ええ認めるわ、でも、その矛盾を内にかかえこんでいるのが人間というものなのよ。それこそが人間なのよ。

1 だって、あなたは、あいつを殺せと言ってるのでしょ。

7 あたしの言うのは、早くこういう状態を終わらせようということなのよ。どうしてそれがいけないの？

1 いや、だからといって、人を殺しちゃいけないとわたしは言ってるんです。

7 矛盾してるわ！ あなたこそ矛盾してるじゃない、だってあなたさっき人を殺したじゃない、殺しておいて、すぐその後で、人を殺しちゃいけないなんて、お説教する気なの。

1 殺したなんて、そんな……ただ窓から出て行ってもらっただけで……

7 ごまかさないでよ、卑怯者！

9 やむを得ないことなんですよ、これは、だってこれ以上もうこういう状態はつづけられない。そうでしょう？ また人が死ななきゃならなくなったら、どうします。だから、そうならないために、あいつを……やるんです。それしかありません。六人の命を助けるために一人に死んでもらう。いや、六人の命を助けるということは、単に六人であるにとどまらず、妻や子供たちの生活を守るといってもある。そうでしょう？ ちがいますか？

- 6 理屈なんかいらぬ。やられる前にやる、それだけだ。
- 10 しかし。……実際問題として、どうやってやりますか。
- 8 あなた、何度話をむしかえしたら気がすむのよう！
- 10 だってそれが一番肝心じゃないですか。さっき皆で頭を集めたときだって、問題はそこだったでしょうが。いいですか、時速百キロで走っている車の運転手を、なぐり倒そうというのですよ。
- 8 少々の危険を恐れていたら何も出来ないわよ。虎穴にいらざれば虎児をえずつて知らないの。
- 10 虎穴にいつて虎児を踏みつぶすようなことはしたくないですからね。
- 8 虎の児はタマゴじゃないわよ！ 虎は哺乳類なのよ！ バカ言わないで。
- 10 比喩ですよ。
- 8 とにかく、早くやってよう！ 男なんでしょう！
- 9 こうしよう。わたしがスパナを持つ。あなた（6）が先に立ち、わたしがすぐ後から。二人で運転席に近づく。
- 6 できるだけ姿勢を低くして。
- 9 そう。見てくれなどに気を使っちゃあぶない。這うようにして進む。問題はその後だ。近づいたら、まずあなたが運転席にはいりこむ。もちろん下からくぐって、はいりこむ。敵は手は使えない。万一抵抗しようとしても大したことはできない。ハンドルを離すわけにはいかないんだから。あなたが充分席にはいりこんで準備ができたなら、わたしが奴の脳天にスパナで一撃を加える。間髪をいれず、あなたは奴の手からハンドルをうばいとる。これは簡単だ、奴は脳天を打たれておそらく両手で頭をかかえるだろうから。そして同時に、わたしが奴の首をうしろからつかんで引きずりたおす。で、あなたが運転席に坐る。

それで終りだ。われわれも助かるし、奴も死ななくてすむかもしれない。

10 一撃で倒れなかったらどうする？

9 一度でダメなら二度、二度でダメなら三度、倒れるまでやる。

6 それはダメだ。倒れても倒れなくても、三度か四度はなぐりつけた方がいい。最初からそう決めておいた方が確かだ。

9 よし、四回やる。ほかに何か？

10 うーむ。

7 あたしたちは？ 何かやることない？

8 なんでもやるわ。

9 いや、女性は坐って見てて下さい。

7 でも、なにか役に立ちたいわ。

6 どうしてもというなら、そう、奴のために歌でもうたってやるといのはどうです。

7 まあ。面白いけどダメよ。

9 なにもしないでけっこう。さ、いっこうか。

6 行こう。

8 がんばって。

7 しっかり。

8 今度こそ成功してえ！

7 失敗はやよう！

うなずきながら6と9、床をはいずり匍匐前進。

7、8、固唾をのんで見守る。

何を思ったか、あと少しのところまで6がとまる。9があとから押す。もめている。

二人引き返してくる。

9 何をやってんだよ、どうしたというんだよ、怖いのか、怖いなら怖いと初めから言えよ、馬鹿野郎。

6 ちがうよ、ちがうんだ。考えてみたんだが、君が奴の脳天を叩き割る。奴はおそらく死ぬ。

9 それがどうしたというんだ？

6 で、わたしがハンドルを握る、握るのはいいが、問題はその後だ。ハンドルを握って、それからこのものすごいスピードで走ってるバスを、どうする？

9 なんだと？ じゃ……あんだ……？

6 自転車も乗れないんだ。

9 なぜ最初からそれを言わない！ 畜生。

6 いま、そばまで行ってハッと気がついたんだ。でも気がついてほんとよかった。

9 馬鹿野郎。で、誰か……あんだ？

10 自転車なら大丈夫だが……

9 あんたは？

1 助手席になら乗ったことあるけど……

問われるより先に、女たちは首を横に振っている。

9 これだけ人間がいて、一人も運転できる奴がないのか。この自動車洪水の日本で。なんてことだ！

死んでしまえ、バカめ。

6 そういう君はどうなんだ？

9 できるんなら腹など立てるか！

問。

6 いいことがある。運転などする必要はない。……ブレーキを踏むんだよ。車をとめるんだよ。

9 ……そうだ。そうだよ。なんでそんなことが判らなかつたんだ畜生。

1 ブレーキってのはどこにあるんです？

9 そんなことも知らないのか。

10 確か、足元にあると思うんだが……

6 多分そうでしょう。

9 多分もなにも決まってるよ。ブレーキを踏むって言うじゃないか。天井にあつたら踏めるか！

6 しかし、アクセルも踏むって言うでしょう。

9 なんだ、アクセルってのは？

6 え？ そんなことも知らないんですか。

1 踏むとスピードが出る奴でしょう？

6 そうです。そういう話です。

9 なんて、そんな正反対のものが、両方とも踏むようにしてあるんだよ！

問。

6 ブレーキってのはどれですって、あいつに聞いてみる……というわけにはいかないな。



間。

10 さ、がっかりしてばかりいないで、何かいい手はないか、考えましょう。

9 ……こうなったら手は一つだ。……奴を殺しておれたちも死ぬ。もしかしたら、一人か二人は助かるかも知れない。それしかない。……怖いのか、みんな。……そりゃ、もしかしたら、このままじっとしてればいつかバスも停って命も助かるかも知れない。可能性はあると思う。しかし、おれはいやだよ、いやだというより、それは人間として、日本男子として許せることじゃないと思う。だって、そうじゃないか。あいつはわれわれとちがって、誰かも言ってたように、立派な悩みを悩んでいるのかも知れない、その点はなんなら認めてやってもいいよ、しかしだ、われわれが家に帰ろうとして乗っているこのバスを、自分の好き勝手に動かすことをきょうひとたび許して黙認せんか、世の中は一体どうなると思うか。もうわれわれに生活はもどってこないよ、それでいいのか。……よかない。おれはいやだ。であるなら、奴を殺して、われわれも死ぬ。……手はそれしか残されていない……。そう思う。

間。

10 その前に一つだけやってみたいことがある。

9 ……うむ。なんです？

10 彼のかたくなな貝のような心に、そっとしみ入るような懐かしい歌を――

10、ハミングをはじめ。

そして歌い出す。

菜の花畑に入り日うすれ

見渡す山の端かすみ深し  
春風そよ吹く空を見れば  
夕月かかりてにおい淡し

ある者は和し、ある者はハミングをつける。

10 変化は？

1 見たところ、残念だけど、ないですね。

7 ……ねえ、もっと歌をうたわらない？しんみりする歌もいいけど、軽やかで明るい歌なんかどうかしら。  
いいと思うわ。

9、首を横にふる。

7 じゃ、もう何もしないの？ あきらめるの？ 死ぬの？ なんて死ななきゃならないのよ！ あたしは  
いや、いやよ！あたしとあいつは何の関係もないのよ。たまたまこのバスに乗り合せただけよ。あなたた  
ちだってそうでしょ、なんであきらめるの、なんでもっと腹を立てないの、間違ってるのはあの男なの  
よ！

9 あきらめたのじゃない。最後の手段をとろうといってるんだ。

7 どうして最後の手段なのよ！ なんでもっと考えないのよ！

9 いや、これ以上手段をろうすると、なにか人間の尊厳にかかわるようなことになりそうな気がする。

7 何いってるのよ！ 生きていてこそその人間なのよ！

9 しかし、死んだ方がましということもある。

7 わたしはいやよ！

1 ちよっと静かにして下さい。……どなたか食べるものは持ってませんか？

6 どうするんです？ あなた腹がへったんですか。

8 こんなときに何を言ってるのよ！

1 わたしが食べるんじゃないやありません。衣食足りて礼節を知るといってでしょう。今の場合礼節というのは、いや状況は異なるけれども、しかし人間、腹がへるといらいらするものです。それは間違いない。あの人は、異常に空腹なのかも知れない。だから、何か食べさせて腹をみたしてもらえば、もしかすると、気持ちゆとりができて、われわれと話ができるかも知れない。

7、8など食べる物はないかと探しはじめ。

6 そうだ、悪くない考えだ。

10 何かあれば、やってみる価値はあると思うが……

と探してみる。みな段々と一所懸命になって探す。が見つからない。何も無い。

7 どうして何も無いのよう！ 転がってる人もいれて七人も男の人がいるのに、誰も家族にお土産一つ買ってないの！なんて子供にお菓子の一つも買ってってやらないのよ！ 薄情者！

9 いつも買って帰るんだが、きょうに限って忘れていた。

7 嘘つけ！ 偽善者！

6 食い物じゃないけれども、人間の気持をひきつけるものが、もひとつ別にあつた。いま気がついた……  
(と、じつと7、8の身体を見つめる)

みなもその視線を追って、その意味するところに気がつく。

- 10 わるくない考えた。
- 1 確かに。
- 9 それはいえる。
- 8 何をさせようっていうの……？
- 8 男たち顔を見合す。
- 8 どうしようっていうの。
- 10 そうと決まれば急ぎましょう。
- 1 どちらにします？
- 6 うーむ。
- 7 なによ！ なにをじろじろ見てるの！
- 6 わたしの好みでいえば、そっちのスレンダーな感じの。
- 9 うーむ、スレンダーはどうか、おれの経験からいうと、その子は着痩せするタイプで、意外と太いところは太い。
- 6 そうかな。
- 9 そう。
- 6 うーむ。
- 10 わたしの好みをいわしていただければ、こっちの——
- 7 一体、なにを言ってるのよ！
- 6 これは真剣な話です。いいですか。あなたも、あなたも、助かりたいでしょう。死にたくないでしょ

う。だったら一肌ぬいで下さい。男はすでに四人たおれました。今度は女性が命をかける番です。

7 どうしろというの……

6 だから文字どおり一肌ぬいで下さい。いやとは言わせませんよ。四人の男たちが死んだについては、あなた方もまるきり責任がないとは言いきれませんかからね。

8 わたしたちが何をしたというの。

6 早くやってえとか、男らしいとか言って男たちをけしかけたのはどこの誰です？ たった今のことだ！ 忘れたとはまさか言わないだろうな！

8 あんただって手伝ったじゃない！

6 おれがやったのは一人だ！ お前たちは三人を殺しているんだ！

8 殺したなんて……

6 殺したもおんなじだ！ それはもういい。さ、どちらがやる？

8 どうするの？  
6 甘えるんじゃない！ 脱ぐんだよ！ 脱いで奴を誘惑するんだ！ 色じかけだよ、やったことあんだろ！

10 あなた、少し言葉使いが乱暴にすぎます。

6 まかしといて。(スパナを手にとり)やさしく言ってるうちにやらないと、ドタマがち割るぞ！

8 あたし、痩せてて魅力ないから、そちらの方にやっていただいた方が……

7 だめ、あたしスタイルいい方じゃないし、効果ないと思う。ガニ股なのよ、少しだけど。

6 よし、おれが決めてやろう。おい、お前(8)、お前だ、お前がやる。

9 ちょっと独走がすぎますよ、君。

10 そう。自分の好みを押しつけちゃいけない。

6 うるさい！ こんなところで話し合っただ多数決でもしようってのか。ふざけるんじゃないぞ、てめえら。

8 やってもいいけど、でも、恥かしい！

6 君はすばらしく魅力的だよ、きれいな脚してる。さあ、ねえちゃん、いてこますか！  
ミュージック高鳴る。

8、身をくねらせて踊り始める。

6 待ってましたミス団地！ いいぞ、いいぞ！

口笛。

8、本職はだして脱ぎはじめる。

1 いいですね。

10 いい。

6 さ、思い切っってってみよう！

1 いけますな。

10 いけます。

ストリップは最高潮。

しかし、運転手はじっと前方をにらんだままである。

9 だめだな。

6 野郎、不能者じゃねえか。よし、君(7)もやるんだ!

7 はい!

ミュージック変って二人で踊る。

男たち、運転手の気をひくべく、口笛、拍手、かけ声でさわぎたてる。

しかし運転手、振り向きもせず。

音楽、踊り、ともにやむ。

6 くそ! どうなってるんだ、あの男は。

1 まったく判らないな、われわれには。

7 ホモなんじゃないの。絶対そうよ、そうに決まってるわ。

8 あたしもそう思う。

6 まさか、そんなこともないだろうが。

8 そうなのよ!

6 同性愛なんてそういるもんじゃないんだよ。

8 絶対ホモよ! 疑うならためしてみろ? ねえ、あんた、ためしてよ。

6 何バカなこと言ってるんだ。

8 (スパナをとる) 冗談いってるんじゃないんだよ! あたしだって恥かしい思いをして脱いだんだ。あ

んたも脱ぎな!

6 よせよ、危ない。

8 脱げというのが判らないのか!

- 1 やって見たらどうです。
- 6 よして下さいよ。
- 10 もしかするとうまく行くかも知れないな。
- 6 いやですよ。
- 8 逃げ！ 脱ぐんだ、ちくしょう！
- 9 多数決で決まりだな。
- 6 そんな……
- 9 やらなくちゃおさまりませんよ。
- 8 逃げ！ ちくしょう！
- 9 さ、決まった。
- 6 待ってよ……
- 7 すてき、脱いで。
- 8 さ、にいちゃん、いてこますか！

ミュージック高鳴る。

6、身をくねらせて踊り始める。

ややあって、バス激しくゆれる。

踊り、音楽、中止。  
間。



6 ああ、みじめだなあ。……女房子供のいるぼくが、なんでこんなことまでやらなくちゃいけないんだ。ちくしょう！

8 みじめなのは、あなただけじゃないわ。

6 ぼくには四つ年下の妻と一歳になる子供がいる。ぼくの帰りを待っているんだ。団地の扉は重いから開け閉めに重い音がひびく。すると茶の間で、パパが帰ったわよ、と妻の声がして、歩き初めてまだ間のない娘が。パタパタとかけてくる。まだしゃべれない口を、あ、あ、と大きくあけて、目をくりくりさせて全体で笑って迎えてくれる。ぼくは家に帰らなくちゃならないんだ。なあ君、帰してくれよ、頼むよ、もういいじゃないか、充分いじめてくれたじゃないか、もう充分からかったじゃないか、もう解放してくれよ、頼むよう、解放してくれよう。

と、泣いているようだ。

1 よせ、大の男がみっともない。

9 見ちゃいられねえな。

10 情けねえやろうだ。

7 男とは思えない。

8 いやね。

6 お前たちに、ぼくの気持がわかってたまるか、ちくしょう。(床に坐って手をつけて)なあ、頼むよ、もう助けてくれよ、もういいじゃないか、もう家に帰してくれよう。

1 よせよ、馬鹿野郎！

とけとばす。

6は転がるが、起きなおってなおも頭をさげる。

6 お願いだ、もうやめてくれよ、助けてくれよう。

1 よせといってるんだよう！ わからないのかこの野郎！

6 頼むよう、解放してくれよう！

となおも頭をさげる。

1 ちくしよう、殺してやる！

と、スパナをとって向きなおり、

1 やめろ！ いいか、やめないと殺すぞ！ やめろと言ってるんだ！……やめろ！ やめるんだ！ ちくしよう！

スパナを打ちおろす。

何度も何度も打ちおろす。

1 やめろ！ やめろ！ やめろ！

6、倒れて動かなくなる。

1 いま、ふといい手を思いついた。笑わせるんだよ、あいつを。人間というのは笑うことのできる唯一の動物だ。奴だっけきつと笑わせれば笑う、笑えば自然に気持が楽になる、なごやかになる。なごやかな気持にさえなれば、それでも何も問題はない、対話だってできる。やってみよう。……さ、何をぼんやりしているんだ、おい、みんな、どうしたんだ？何も驚ろくことはないじゃないか。みんなもついさつき窓から一人放り出したばかりじゃないか。もう忘れたのか。……第一、この男を見ちゃいられない、情けな

いって罵倒してたじゃないか。……よし、まず、あんた方から笑ってもらおう。その方が雰囲気が出て、奴も笑いやすいだろう。さ、笑えよ。(と、Iは自分で多分気がつかずに、スパナを振り回している) そら、笑えよ、笑おうよ、そら。

9と10、顔を見合わせて、こわごわ笑ってみる。

I そう、その調子。

9、10、笑う。

I もっと明るく、ほがらかに。

9、10、笑う。

I もともに笑い、7、8も和す。

笑いからぎこちなさが消えて、哄笑へと高まる。

バスはやがて上下左右に激しくゆれはじめ、生きている者も死んでいるものも、共にごろごろと転がって笑っているようである。

しかし、運転手は前方をにらんだまま――

雨の降る夜のことである。

底本.. 『現代日本戯曲大系 第10巻 一九七五～一九七七』

三一書房

一九九七年九月三十日 第一版第一刷発行